

健康まちづくりプラン素案に対する意見募集（パブリックコメント）の結果

1. パブリックコメントの概要

(1) 意見募集期間 令和6年1月15日（月）から2月5日（月）まで

(2) 意見提出者数 9人（33件）

2. いただいた意見の要旨及び市の考え方

提出方法	意見要旨	修正	市の見解
1 メール	高齢化社会を迎えた中での、これからの国立市の行政の中心軸に「(市民が)健康(に暮らせる)まちづくり」を配置されたことに賛同する。		(健康まちづくり戦略室) ご賛同いただきありがとうございます。
2 メール	ウェルビーイング(概念)は、ほとんどの市民は初めて耳にしたと思われる。単なる”飾り言葉”になったり逆に独り歩きし違う方向に行くことも危惧される。時間がかかるとは思うが、具体的な施策を積み上げていく中で認知度を高められるように努力願う。		(健康まちづくり戦略室) 具体的な施策を積み上げていく中で認知度を高められるよう、努めてまいります。
3 メール	全部署参加型になるということは、逆に全部署が無責任(他人事)になることも危惧される。縦割り風土を変えていくには職員一人一人は当然だが、市長始め幹部職員に意識改革ができるかが肝になると思う。		(健康まちづくり戦略室) いただいたご意見は全庁で共有し、今後の施策に活かしてまいります。
4 メール	市民意識調査で国立市民の幸福度・満足度が他市より高いとされており、このことは良い材料だとは感じるが、「平均値」にだけ目を奪われないことが大事。行政の目的の一つには、「平均値以下」の市民のウェルビーイングをいかに上げていくかがあり、単なる数値比較だけではなく個々の内実を分析検証することを忘れないで欲しい。	有	(健康まちづくり戦略室) ご意見を踏まえまして、プランの11ページに「今後の意識調査では、幸福度・満足度の低い人の要因分析も併せて行い、向上を目指す取組に活かしてまいります」と記載します。
5 メール	ウェルビーイングの推進には、既に国立市が取組んでいる”人権尊重”をさらに進めていくことが欠かせない。人権尊重は人間が幸せに生きていくための最低限の条件であるとともに、最高の目標でもある。		(健康まちづくり戦略室) いただいたご意見は庁内で共有し、今後の施策に活かしてまいります。
6 メール	正式な計画になり実行されていくと思うが、常に市民の声を聞きながら必要とあらば追加や修正をしていく柔軟さも大事にして欲しい。 この意見が取り入れられるなら、最大限の応援・協力は惜しまないつもりである。		(健康まちづくり戦略室) 情勢や市民意見を的確にとらえ、柔軟に対応できるよう、努めてまいります。

	提出方法	意見要旨	修正	市の見解
7	メール	引越してきた友人が、国立市は、団地の目の前に公園、芸小ホール、体育館があり環境が整っていると感激していた。「つながる、集えるまち」を実感したのではないかと思う。ある程度満足しているこの国立市で健康まちづくりを通じて目指すまちの姿実現のために微力ながら推進していきたい。		(健康まちづくり戦略室) 環境整備に引き続き努めてまいります。 市民の皆様と協働して目指すまちの姿実現に取り組みます。
8	メール	日常の移動手段として自転車を利用している経験から、ルールを守ることは当然のこと、安全対策として道路整備が欠かせない。自転車走行路は車道、歩道に比べてないがしろにされているのでは？と感じる。人、車、自転車がお互いに相手を思いやる心をもって移動できるまちづくりを目指したい。		(道路交通課) 車道、歩道と比べて自転車走行路をないがしろにしているとは考えておりませんが、ご意見頂いた通り人、車、自転車がお互いに相手を思いやる心をもって移動できるまちづくりについては共感できるものと捉えております。
9	メール	食と文化について、音楽が溢れているまちというイメージがありました。昔は大学通り沿いに音大生がピアノを弾く店がありお酒を飲みながらライブを楽しめた。 今は駅舎がその役割を担っているのかも知れない。地産の食材を提供し、国立クラフトビールを楽しめるお店があっても良い。		(まちの振興課) 地産の食材を提供し、国立クラフトビールを楽しめるお店は、市内にいくつかあります。これらの情報発信を旧国立駅舎の案内機能を活用し進めていくとともに音楽イベントについても活発に行っていきます。
10	メール	幸福度、満足度の低い人たちの分析が必要でプラン作成に活かしていくべき。 健康を意識するか？健康でありたいと意識するか？人それぞれ意識しなければ、市が健康まちづくりをしても目指すまちの姿にはならないのでは？ いかにみんなが健康を意識するかが問題だと思う。	有	(健康まちづくり戦略室) ご意見を踏まえまして、プランの11ページに「今後の意識調査では、幸福度・満足度の低い人の要因分析も併せて行い、向上を目指す取組に活かしてまいります」と記載し、分析を実施します。
11	メール	東京女子体育大学と連携して体育専門の先生方達の専門知識に接する機会を作ればと思う。具体的には公開講座等。		(生涯学習課) 東京女子体育大学とは様々な連携を行っているところですが、より連携を深められるよう努めてまいります。
12	メール	高齢者に限らず、幸せの原点であり、その元となるのがお口の健康である。「口腔ケア」にもっと力を入れていいのではと考える。栄養についても同様。		(高齢者支援課・子育て支援課・健康まちづくり戦略室) フレイル予防事業、乳幼児歯科健診、成人歯科健診、健康栄養相談など関連事業について、さらに充実した内容になるよう努めてまいります。
13	メール	心安らぐ自然環境、豊かな人間関係、安心安全な街が思い浮かびましたが、国立の街並みは、四季を織りなす自然がたくさんあり、歩いているだけでも、幸せな気持ちにさせてくれている。		(健康まちづくり戦略室) 市民の皆様が大切にしている良い環境の保全に引き続き努めてまいります。

	提出方法	意見要旨	修正	市の見解
14	メール	地域での人間関係や、安全と安心という面では、自治会も任意であり、これだけ頻繁に起こる災害を目の当たりにした時、近隣であっても、お互いの家族状況もわからず不安になり少子高齢化だけではなく、様々な分野で、後継者がつながっていないと感じている。		(防災安全課) 防災の観点からも共助として地域のつながりは重要なものと認識しています。 防災安全課では出前講座などで自助の備えとしての家庭内備蓄の啓発を行うほか、地域とのつながりについての重要性を啓発し、共助としての備えについても啓発を行ってまいります。
15	メール	ウォークアブルなまちづくり、様々に整備されていく中で、高齢者が、駅近くの同じベンチに朝早くから夕方まで座されている。通勤の度に目にし、いたたまれない気持ちになる。		(福祉総務課) 市内の住所不定の方に関しては、市の職員や支援団体が定期的にお声がけし、福祉の利用を勧めております。今後とも支援を継続してまいります。
16	メール	共食では、子ども食堂だけではなく、だれでも食堂的に、高齢者も個食にならないような機会が、生まれれば良いと思う。身近な市民同士が、少しは関心を持ち助け合えるまち、誰一人おいてけぼりをつくらない、そして、みんながそれぞれの幸せを感じる事ができるまちづくりが理想だと思う。		(健康まちづくり戦略室) 民間事業者、NPO法人等と連携する中で、共食の場の増加、情報周知に努めてまいります。
17	メール	自然景観について、海に面していない国立市にとって、川はとても大切です。できるだけ現状のままの姿であって欲しい。		(環境政策課) ご指摘の矢川をはじめ、市内を流れる河川や水路は、市内の貴重な親水空間として、引き続き水域及び生態系の保全、育成を推進してまいります。
18	メール	国立駅付近は学園都市、矢川駅や谷保駅側は自然豊かな農の風景があり、国立市は狭い面積でありながら異なる貌を見せてくれるのは素晴らしいことだと思う。小学生が実際の田んぼで田植えや稲刈りを体験できるのは大きな財産。子どもたちも農作業を通して国立を学んでいると思う。		(健康まちづくり戦略室) ご意見のとおり、農業体験ができる機会は国立市の大きな魅力です。市民の皆様が大切にしている良い環境の保全に引き続き努めてまいります。
19	メール	80・90歳代でも元気で意欲的な高齢者が大勢いる。国立市ではシニア向けの体操教室など充実しておりありがたい。虚弱になってもそれまでの生活が出来ると良い。例え心身機能に障がいがあっても国立市で意欲的に生活ができる人が増えることに対し、高齢者もお役に立ちたいと考える。		(健康まちづくり戦略室) 生涯活躍できるまちを目指して、さまざまな関連事業を実施してまいります。

	提出方法	意見要旨	修正	市の見解
20	メール	<p>安心して出歩けるウォーカブルなまちにしていくためには、緑や水面（用水路や水田など）を増やすことが大切。しかし、国立市では、草や樹木などの緑が除去され、水面は橋や道路になり、水田などの農地は次々と宅地になっているように見える。</p> <p>「猛暑が恐ろしくて外を出歩けないまち」になってしまうと思う。</p>		<p>(環境政策課)</p> <p>街路樹による歩行空間の木陰の確保や、公園・街路樹などをはじめとした緑地、樹林地等のグリーンインフラの保全を推進してまいります。また、熱中症対策として、市内公共施設のほか国立市商工会に協力を呼びかけ、緊急時における避難先となる旨を表記した告知物（のぼり、ステッカー）を掲出し、熱中症の予防に取り組んでいます。</p>
21	メール	<p>P.23</p> <p>「道路拡幅を前提に～新規路線の整備などを検討します」とありますが、通学路でもある道路を拡幅してしまうと、かえって車がスピードを出すようになってしまい、通学する子どもにとって危険になってしまう道路があると思う。</p> <p>子どもの安全、安心を考えると、道路拡幅を前提とするよりも、通学路においては、『道路を拡幅しない』『狭さくの設定』などにより通行車両に減速を促す方がよい場合もあると思うので、「道路拡幅を前提」という考え方は必ずしも適切でないと思う。</p>		<p>(道路交通課)</p> <p>狭い道路にバスが運行することはできないため、バスを運行させるためには、道路の拡幅が必要になります。ご意見の通り道路の拡幅はバスの運行のみを目的とするものではありません。利用者の安全、安心を最優先に考えるべきことであると考えております。このため、道路拡幅する場合、交通安全対策についても十分に考慮し、交通管理者である警察とも相談しながら進める必要があると考えています。</p>
22	メール	<p>P.29</p> <p>文章中にある「整合性を測り」は「整合性を図り」とするのが適切だと思う。</p>	有	<p>(健康まちづくり戦略室)</p> <p>ご指摘のとおり、「整合性を図り」と修正させていただきます。</p>
23	メール	<p>P.35、P.38、P.40</p> <p>公園の健康遊具の活用について、高齢者が公園の健康遊具を利用しているところをあまり見たことがない。</p> <p>健康器具は、高齢者がたくさん集まる『くにたち福祉会館』のような場所や、『高齢者などの居場所として市民から寄付・遺贈された土地』などに設置する方が、今よりもっと活用されると思うので検討願う。</p>		<p>(環境政策課)</p> <p>公園や遊園の再整備においては、今ある児童向けの遊具を単純に再整備することではなく、公園や遊園にこういったニーズがあり、児童向け遊具の再整備が良いのか、健康器具の設置が良いのかなどの検討を行って設置しております。また、公園以外の市の施設への高齢者向けの健康器具の設置についても、周辺の設置状況を踏まえたなかで検討を行ってまいりたいと思います。</p>
24	持参	<p>他の方はどのように感じているのかと思いながら、健康まちづくりに関するアンケートに記入して郵送した。資料をゆっくり読ませていただき、方向性が見えてきたように感じる。</p>		<p>(健康まちづくり戦略室)</p> <p>ご賛同いただきありがとうございます。</p>
25	持参	<p>居場所が少ない、あってもPRがなく、知っている人が少ない。地域のつながりが深くなりにくい。</p>		<p>(健康まちづくり戦略室)</p> <p>大人数でも、1人で過ごしても居心地の良い場所が多くなるよう努めてまいります。また、情報提供のあり方については検討を進めてまいります。</p>

	提出方法	意見要旨	修正	市の見解
26	FAX	P14 移動しやすいまちをぜひ取り組んで欲しい。緑は大切だが狭い道に街路樹はいらない。高齢者が気軽に外出するためにはバスが欠かせない。不便なところにこそバスを小型化しても本数を増やして欲しい。		(道路交通課) バスの運行に当たっては、需要やコストなどについても検討が必要になります。このため、新規路線を検討する場合、需要等も踏まえて総合的に判断したいと考えております。
27	FAX	P17 単独世帯の割合が47%ということに驚いた。ますます声をかけあえる仕組みを考えなければならないと思う。		(健康まちづくり戦略室・高齢者支援課) 市の特性として、高齢者だけでなく、若い世代の単独世帯も多くあります。さまざまな年代の方が尊重しあい、支え合う共生社会を目指してまいります。
28	FAX	P20 子供たちがいきいきと暮らせるとありますが、外で元気に遊んでいる子をあまり見ない。友達ともっと元気に走り回って健康な体を作ってほしい。		(健康まちづくり戦略室) 屋外、屋内を問わず子ども達が安心して過ごせることが大切と考え、環境整備を進めてまいります。
29	FAX	P23 デジタル地域通貨と健康ポイント事業の組み合わせが早く実現すると良い。		(健康まちづくり戦略室) 外出機会が増えるよう工夫したさまざまな取組を実施してまいります。
30	FAX	P31 指標「国立市にずっと住みたいと思う人の割合」は維持ではなく向上にしてもらいたい。		(健康まちづくり戦略室) 5割を超える方が「国立市にずっと住みたいと思う」と答えていただいていることから、維持または向上とさせていただきました。そう思わないとお答えになった方の理由にも注目し、定住したいと思う方の割合の向上を目指して施策を推進してまいります。
31	FAX	P46 観光促進は、国立市は印象の良い町だと思うので、がんばってほしい。		(まちの振興課) 旧国立駅舎の案内事業を起点に国立ならではの個性的な店舗、大学通りをはじめとした街並み、桜並木、歴史的な文化遺産、南部地域の自然や農のある風景など国立市の魅力発信をしていきます。
32	持参	泉・谷保地域のウェルビーイング 安全と安心＝谷保地域では夜道は安心できない 飲食できる場所＝家の回りにほとんどない 移動がしやすい＝しにくい、バスの本数が少ない まちの雰囲気＝良いとも、悪いともいえない 身近に自然が＝自然はとても感じられる、多摩川があり、サイクリングロードがあり		(南部地域まちづくり課) インターチェンジ周辺では、その特性を生かし、工業などを誘導し、水や緑が豊かな地域では、保全を図るなど、バランスに留意したまちづくりを進めています。その中で安心安全、利便性も高まるまちづくりを目指してまいります。

	提出方法	意見要旨	修正	市の見解
33	持参	<p>長く住んでいる国立が良い。 ボランティアやサポーターになって色々な人と接し勉強になった。この先も健康で過ごせるよう頑張りたい。</p>		<p>(健康まちづくり戦略室) 市民の皆様と協働して目指すまちの姿の実現に向けて取り組みます。</p>